

研究・調査報告書

報告書番号	担当
361	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Association between smoking and the risk of heavy drinking among young women: a prospective study. 若年女性における喫煙と多量飲酒リスクとの関連：前向き研究	
執筆者	
Morgen CS, Bove KB, Larsen KS, Kjaer SK, Gronbaek M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol and Alcoholism 2008; 43: 371-375.	
キーワード	
要 旨	
<p>目的： 若年女性における喫煙と多量飲酒リスクとの関連を明らかにする。</p> <p>方法： コペンハーゲンにおけるデンマーク人を代表するコホートにて、1991-93年と1999-2000年に飲酒と喫煙の習慣に関する繰り返し調査を実施した。ベースライン時20-29歳で非飲酒あるいは適量飲酒のデンマーク人女性6,369人が追跡調査に参加した。8年後に多量飲酒者（週14杯を超える）となるリスクをロジスティック回帰にて分析した。</p> <p>結果： 追跡期間中177人が多量飲酒者になった。非喫煙者に比べ、喫煙者が多量飲酒者になる調整オッズ比は、喫煙本数1-14本、15-24本、25本以上でそれぞれ1.6（95%信頼区間1.1-2.4）、1.7（1.1-2.6）、2.3（0.9-5.9）であった。初交年齢は喫煙の影響を修飾し、初交年齢が15歳未満の女性では喫煙のオッズ比は2.9（1.1-3.9）であったが、初交年齢が18歳以上の女性では関連がなかった。非飲酒者に比べて、ベースライン時に少量（週1-5単位）、中等量（6-10単位）、やや多量（10-14単位）の飲酒をしていることは、8年後の多量飲酒のリスクと独立して関連した。</p> <p>結論： 喫煙は若年女性が多量飲酒者になるかどうかの重要な予測因子であり、初交年齢が早い女性では特に関連が強いことが示唆された。</p>	